

2017 SGH通信

【2年生配布用】

No.4 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

東京大学から北村友人先生をお招きし、グローバル講演会を開催します！

1 目 的 「SGH 課題研究1」の学びを終了した2年生が、1年間の学びを振り返り、「持続可能な社会の実現」を目指して探究的な学習を行うことの意義を再認識することを講演会の主たる目的とする。

そのため、「国際開発」分野を専門的に研究している大学教員を講師としてお迎えして、学びの意義に加えて、「SGH 課題研究2」における研究視点を学ぶ機会とする。

2 日 時 平成29年5月25日（木）3時限目・4時限目

3 場 所 大垣北高校管理棟2階 ゼミナール室

4 時間配分

着席完了	10時43分	
講師紹介等（5分間）	10時45分～10時50分	
講 演（80分間）	10時50分～12時10分	（学習シートへのメモ）
質疑応答（10分間）	12時10分～12時20分	
講師退場		
記録作成（15分間）	12時20分～12時35分	（学習シートのまとめ）



5 講 師 東京大学大学院教育学研究科 北村友人 准教授

職 歴 UNESCO パリ本部教育局、名古屋大学大学院国際開発研究科准教授、ジョージ・ワシントン大学客員研究員、ダッカ大学客員教授、王立ブノンペン大学教育学大学院国際諮問委員、上智大学総合人間科学部准教授、などを経て現職

学 位 人間関係学士（慶応義塾大学）、M.A.およびPh.D.（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

6 講 題 「持続可能な社会のあり方を考える」

7 講演内容

- ①持続可能な社会の実現のために私たちが考えるべきこと
- ②高校時代に探究的な学習をする意義



8 持ち物 「課題研究ファイル」、筆記用具、学習シート、SGH 通信、講義資料

北村友人

サステナビリティ学連携研究機構 兼任准教授
 東京大学大学院教育学研究科 准教授



【研究内容】

専門は、比較教育学、国際教育開発論。途上国の教育開発に関する政策研究や学校レベルでの調査などを行うとともに、国際機関・援助機関による国際教育協力などに関する研究も行っている。主に東南アジア・南アジア諸国の教育について研究を進めてきたが、近年はとくにカンボジアやラオスなどのインドシナ諸国を中心に現地の大学や教育省と共に調査研究に取り組んでいる。共編著に『国際教育開発の再検討—途上国の基礎教育普及に向けて—』（東信堂、2008）、『The Political Economy of Educational Reforms and Capacity Development in Southeast Asia』（Springer、2009）、『揺れる世界の学カマップ』（明石書店、2009）、『激動するアジアの大学改革』（上智大学出版、2012）等。

【研究プロジェクト】

- ポスト2015年の開発アジェンダにおける持続可能な開発目標（SDGs）の位置づけに関する研究
- カンボジアにおける就学継続の社会的文脈に関する経年的研究
- 持続可能な開発のための教育（ESD）にもとづく安全教育に関する研究
- アジアにおける高等教育の国際連携に関する研究

出典：東京大学サステナビリティ学連携研究機構 HP

【<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/faculty/%E5%8C%97%E6%9D%91%E6%9C%89%E4%BA%BA/>】より

■今回の講演会を、あなたにとって、より有効な機会とするために・・・

7月からの「SGH 課題研究2」で、研究をどう進めていくのか、考える機会にしましょう！

①自らが選択している「5領域」の中で、現時点で最も研究してみたいテーマは何ですか？

（昨年度のどの部分を深化させる発想ですか？ この点を明確に説明できますか？）

②アジアのどの国（地域）を主たるフィールドにして研究を進めますか？

（昨年度と同じ人は、なぜ変えないのですか？ 昨年度と違う人は、なぜ変えたのですか？）

③自分の研究が、どのように「アジアの持続可能な発展」に資すると言えるのですか？



北村先生のお話を聞いて、③の答えに自信を深めることができることを期待しています。

③が明確でない人は、お話を伺う中で、自分の研究の方向性に道筋を付けていきましょう。